



波長が短く、 $\gamma$ -ray の emission  
の理論が初めて与えられる。

エネルギーの計算は、~~negative~~ negative  
formulate して Selbstenergie  
の Schwierigkeit が与える問題となるわけ  
である。この Schwierigkeit を克服し、  
quantum electrodynamical は勿論のこと  
一つの可能な Formulation を行うこと。

と云う。 electron と proton 及び neutron との  
interaction の term  $\gamma, \gamma^+$  は  
charge の continuity の式から得る。  
electron の波動関数の particular solution を  $\psi$   
とし、neutron, proton の波動関数を  $\chi, \chi^+$  と  
neutron と proton との interaction が与える。  
これは neutron と proton の Austausch の  
integral の形をして得る。  $\gamma, \gamma^+$  の波動関数が  
波長が非常に短く、exact な形は与えられず、  
abstract な形式で abstract に書く。  $\frac{\hbar}{2\pi m c}$  の  
単位で書く。  $\hbar$  は Planck の定数、 $m$  は  
質量、 $c$  は光速である。

これに気が付いた。実際、Neutron と Proton と electron との  
相互作用は電磁気力と強い力とを介して起こる。これは  
よく、elementary particle と呼ぶ。proton と electron との  
相互作用は電磁気力である。この相互作用は、  
即ち neutron と elementary particle との相互作用  
である。neutron と proton とは neutron 同士の  
相互作用は electromagnetic field を媒介とする。この  
interaction は force である。Heisenberg の  
論文 Ladung の Plafwechsel による interaction  
は、この相互作用の媒介である。Neutron の  
electron を emit して proton となり proton を  
electron を absorb して neutron となる。この  
process は、neutron, proton の相互作用  
の一例である。また、electron の radiation  
を emit して absorb する。これは、atom electron  
electron 同士の interaction の一例である。この  
相互作用は、radiation の charged particles  
の相互作用の一例である。electron  
が proton と neutron とは neutron の相互作用  
の媒介である。これは、よく知られている。この  
相互作用は、radiation の相互作用と analogous である。この  
相互作用は、neutron と proton との相互作用の  
一例である。

$$\psi = \varphi e^{-\frac{mc}{\hbar} r}$$

$$(-\nabla^2 + m^2 c^2) \psi = 0$$

$$\left( \square - \frac{m^2 c^2}{\hbar^2} \right) \psi = 0$$

波動方程式

↑  $\square \psi = P$  を解いた場合と似た形、  
例、retarded potential の  $\lambda > 2$  への  $\frac{\hbar}{2\pi mc}$  は  
きいておらず、abstract として  $\lambda$  に対する  
 $\lambda > 2$  である。

